

講演会「はやぶさ2に集結する日本の技術」を開催

開催日：2020年2月19日(水)

場 所：一般財団法人機械振興協会 機械振興会館

講 演：テーマ「はやぶさ2に集結する日本の技術」

講演者：国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)

宇宙科学研究所宇宙機応用工学研究系 教授 久保田 孝 殿

2月19日(水)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)から久保田教授をお招きし、「はやぶさ2に集結する日本の技術」と題し、「はやぶさ」「はやぶさ2」プロジェクトを通じて得られた日本の最先端技術やいくつかの困難を乗り越えるために必要なプロジェクトマネジメント及び今後の月惑星探査の展望などに関し、ご講演をいただきました。

久保田先生は、初代「はやぶさ」プロジェクトには、構想段階から参画され、2003年の打ち上げから2010年の帰還まで全工程を最前線でご覧になってこられ、「はやぶさ2」ミッションでは、スポークスパーソンとして広報窓口をつとめられ、また、探査ローバ「ミネルバ2」のとりまとめをご担当されてきました。

久保田先生からは興味深い具体的な事例を多数ご紹介いただきましたが、とりわけ「信頼性確保の見極めの難しさ」と「新しいことへのチャレンジする気持ちの大切さ」を教えていただきました。

機器の設計をする際には、(特にクリティカルな機器の場合)二重、三重のセーフティガードを行う必要があるが、行ったセーフティガードは全て検証を行う必要があるため、時間と手間が掛かる。従って、限られた時間のなかでできるだけシンプルな設計とする様に心がけたが、必要・十分でかつシンプルな設計の最適なポイントの見極めが大変難しかった、というご説明には、人間の命を預かる重要な装置にもかかわらずもあり、感銘を受けました。また、会議を開催する際には、「過去に事例がない。そんなことは無理。」などというネガティブな発言は、NGとし、常に新しいことへチャレンジした、というお話は、普遍的な指針として、改めて、肝に銘じることができました。

はやぶさ2の地球への帰還後、どんな発見があるか大変楽しみです。久保田先生からまた色々とお話を伺う機会がもてれば、と考えております。

